

38 歳

# 知的好奇心を喚起する

鳥取県倉吉市立西郷小学校 松本勝男

向山氏は38歳、わたしは26歳。  
教員になって、3年目。新採2年目であった。  
このころ、すでに、向山氏が東京の地から全国区へ登壇していたのである。  
未だ、私は、向山氏の存在を知らなかったのである。

## 1 昼は夜より一時間長い

ある日の昼の時間は夜の時間より一時間長い。昼と夜は、それぞれ何時間か。

- ◇国語の教科書に、「妹の宿題」(ノーソフ作)という教材がある。  
兄貴が算数の宿題を考えるのに、四苦八苦十六苦三十二苦……する物語であり、なかなか楽しい。  
算数の問題とは、次の内容である。  
男の子と女の子が、森にくるみをとりに行った。  
二人は、全部で122とった。  
女の子は、男の子の半分取った。  
男の子と女の子はそれぞれいくつずつとったか。  
わたしは、子どもたちにも同じ体験をさせてみたいと思った。できそうでない問題に取り組ませるのである。  
このために、実にかっこうの問題がある。  
私は、1日が何時間あるのかを確かめた後で、次の問題を出した。

上記の問題である。

誤答は

昼13時間	夜11時間
昼13時間	夜10時間
昼12時間	夜11時間

であったと記してある。

できそうでできない問題である。

その時間にできなかった子供は休憩時間にもやっていたという。

知的好奇心を喚起する問題である。

このような問題を与えたとき、どのように授業するか。

文中から、抜粋する。

- (1) 何人もの子どもがぞろぞろと「できました」とノートをもってきた。
- (2) 「何も口に出すな」ときつく言ってから、ノートを採点した。
- (3) しっかりと大きくバツをつける。ビックリする。
- (4) 席へ帰ってやり直しを始める。
- (5) 15分過ぎ 久保田さんの間違いは高級だ、と発言。
- (6) 25人目の安生君が合っていた。やった、とやっている。  
トリプルAをつける。3人合格
- (7) 私はヒントを与えた。  
「さっきの久保田さんの良いまちがいは昼12時間、夜12時間という  
ものです。」  
5人目に野地君が正解となった。のべ155人目であった。
- (8) 私はさらにヒントを与える。  
「初めてもって来た人は、昼13時間、夜10時間でした。しかし、こ  
こから考えは始まるのです。」  
(3人もって来た後)
- (9) 私はヒントを付け加えた。「だから、昼12時間、夜11時間というよう  
に考えるのですが、これでは1日が23時間です。」  
(ここから正解ラッシュが始まる。)
- (10) 途中で何度か「答えを教えようか。」と言ったのであるが、子どもたち  
は必死で「教えないで」と叫んでいた。
- (11) 時間切れとなったのだが、できなかった子は、休み時間もやっていた。

これが手順である。

子どもに知的興奮と成就感を与える学習方法だと考える。

子どもの伸びようとする力をつぶさないのである。

子どもは元来自分でしたいのである。

## 2 新潟授業紀行

分析批評を学習するようになってからの変化を、大森氏は三つ述べられた。

- 一. 子供が書けないということがなくなった。
- 二. 文体が明晰になった。
- 三. 今までならなかったもの身につけたものを使えるようになった。

新潟授業紀行には、向山氏が、大森氏の学級の授業に講師としても招かれたときのことが書かれている。

そのとき、大森氏（当時 新潟大学附属小学校 3、4年複式学級の担任）は下記のテーマで授業をしている。

### 主題

—これからの国語指導のあり方を探る—

—「気持ち」「感想」重視だけでよいのか—

授業 だから わるい オセーエワ作、西郷竹彦訳

3年生10名、4年生10名。子どもたちは同じ教室で授業を受けた。

◇美しい子どもたちだと思った。私が今まで見た中で、最も美しい子どもたちだった。顔つきがさわやかで、にこやかで、知性的なのである。大森先生の技量の並々ならぬことがうかがえた。

文学の授業で、「視点がどこにあるか」が、課題だった。

すごい授業だった。すごい子どもたちだった。

「視点がどこにあるか？」という問いかけにノートがびっしりうまっていく。5分たったころ「あと5分にします」と大森先生は言ったのだが、子どもたちはそれでも書き続けているのである。

〈どうしてあの子たちは、あれだけ書けるのか。〉これがテーマだった。

また、発表もすごかった。あんなにしっとりとした話し合いを、私は初めて見た。おそらく、日本で屈指の討論だろう。録音をいつかお聞かせしたい。

分析批評での授業であった。

自分の考えを約10分ノートに書き、その後、子どもたちは発表した。

しっとりと討論したという。

わたしもそのような授業を、ぜひ、したい。

分析批評は子供達を確実に変化させていったようである。

- ◇授業中、気になる動きをした女の子がいた。渡辺さんというのだが、1度目は先生に、2度目は隣の子に聞くことがあるらしかった。

この文面が気になる。向山氏は何を気にしたのでろう。

### 3 授業「小さなみなとの町」

小さなみなとの町をこのように授業する。

#### 小さなみなとの町

木下夕爾

母とふたりで  
 汽車でとおった。  
 小さなみなとの町

たれかのたべのこした  
 アイスクリームが  
 まどわくのところでとけていた

汽車のとまっているあいだ  
 波の音が聞こえていた  
 つくつくぼうしが鳴いていた

それだけをはっきりおぼえている  
 もう二度とくこともないだろうと  
 思いながらとおりすぎた  
 小さなしずかなみなとの町

学習内容を書く。

1. 全員起立。読んだ人からすわりなさい。
2. 私は、文のおしゃれ、レトリックを教えた。

私は昨日公園に行った。

A私B昨日C公園

で終わる名詞止めにさせる。

3. この詩はいつ書かれましたか。  
 母とふたりで小さなみなと町を通った人は、2回通ったのか？ それとも1回なのか？
4. 対比されているものは何ですか。どういう言葉とどういう言葉が対比されていますか。対比は反対の場合もあるし、同じようなことを言っている場合もありますね。それをノートに書きなさい。

松本勝男（まつもと かつお）＝法則化サークル 山陰なしの会